

小児科の現況

小児科医長 藤 保 洋 明

私が平成6年4月に当院へ赴任してから約2年が経過いたしました。2年間の小児科の診療状況について振り返ってみたいと思います。

1) 小児科スタッフの交代

平成6年1月から3月までは、前年に引き続き滝本昌俊副院長・西條政幸医長・山本美智雄医師および西條晴美医師（非常勤）の4人が担当しました。4月には、西條政幸先生は旭川医大小児科へ、山本美智雄先生は深川市立総合病院へ、西條晴美先生は北海道立旭川肢体不自由児総合療育センターへ転任され、後任として私と井上裕靖医師が旭川医大小児科より赴任しました。平成7年4月には、井上裕靖先生は遠軽厚生病院へ転任され、後任として立花幸晃医師が深川市立総合病院より赴任しました。

2) 診療体制

一般外来は滝本副院長と私が担当し、患者数は

1日平均130人程度です。専門外来は旭川医大小児科からの出張医が担当し、平成7年の担当医は、循環器疾患外来（岡隆治講師・梶野浩樹先生）、免疫疾患外来（東寛講師）、神経疾患外来（宮本晶恵先生）、内分泌疾患外来（伊藤善也先生）、未熟児発達外来（角谷不二雄先生）、遺伝疾患外来（蔭田芳男先生）でした。

入院患者および新生児は立花先生と私が担当し、3回西病棟（産婦人科との混合病棟）で診療を行っています。定床数は15床（一般病床13床、新生児病床2床）で感染症流行時にはしばしば満床状態が続きます。

院外活動として名寄市内の予防接種、学校健診、乳児健診、3歳児健診があり、滝本副院長が担当しています。

3) 患者数の動向（表1、表2）

外来受診者数は、平成6年は延べ25964人、1日当たり105.1人で、平成7年は延べ32628人、1

表1 平成6年の患者数（人）

外 来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
総 数	1578	1901	1883	1880	2420	2454	2294	1785	2169	2265	2559	2776	25964
診療日数	20	19	22	20	19	22	21	23	20	20	20	21	247
1日あたり	78.9	100.1	85.6	94.0	127.4	111.5	109.2	77.6	108.5	113.3	128.0	132.2	105.1

入 院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新規入院数	46	53	62	46	64	64	55	51	59	66	65	50	681
延べ患者数	354	405	407	315	399	408	417	272	365	497	446	372	4657
診療日数	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365
1日あたり	11.4	14.5	13.1	10.5	12.9	13.6	13.5	8.8	12.2	16.0	14.9	12.0	12.8

表2 平成7年の患者数（人）

外 来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
総 数	2548	3397	3964	2382	2731	2553	1802	1975	2766	2751	2618	3141	32628
診療日数	19	20	22	20	20	22	20	23	20	21	20	21	248
1日あたり	134.1	169.9	180.2	119.1	136.6	116.0	90.1	85.9	138.3	131.0	130.9	149.6	131.6

入 院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新規入院数	65	59	69	57	71	57	65	59	64	72	68	85	791
延べ患者数	444	371	474	387	451	373	410	369	393	445	400	454	4971
診療日数	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365
1日あたり	14.3	13.3	15.3	12.9	14.5	12.4	13.2	11.9	13.1	14.4	13.3	14.6	13.6

日当たり131.6人でした。この差は、例年1～3月に流行するインフルエンザが、平成6年には極端に少なく、逆に平成7年には多かったことが主な原因と思われます。

入院の方は、平成6年は新規入院数681人、延べ4657人、1日当たり12.8人、平成7年は新規入院数791人、延べ4971人、1日当たり13.6人でした。定床数は15床（一般病床13床、新生児病床2床）であり、平成7年の平均病床利用率は90.7%であり、この辺りが上限と思われます。夏期には若干の余裕がありますが、冬期など何らかの感染症流行時には、すぐに満床状態が続くようになってしまいます。同病棟の産婦人科や他病棟へお願いすること多いのですが、当院は全科で同様の状況であることが多く、しばしば市立士別総合病院小児科にお願いする場合もあります。

4) 診療担当範囲

当院は上川北部地域センター病院であり、他町村から多くの患者さんが来院されます。その市町村別割合を表3および表4に示します。名寄市民の割合は、平成6年では外来で70.7%、入院で61.8

表4 入院患者の市町村別割合 (%)

	平成6年	平成7年
名 寄 市	61.8	63.7
美 深 町	7.6	7.2
風 連 町	5.5	3.9
下 川 町	5.0	4.6
中 川 町	3.6	1.2
中 頓 別 町	2.7	1.1
枝 幸 町	2.3	5.4
歌 登 町	1.9	1.6
浜 頓 別 町	1.8	1.6
音威子府村	1.6	1.3
幌 延 町	0.7	0.2
西 興 部 村	0.6	1.1
士 別 市	0	1.9
そ の 他	4.9	5.2

表3 外来患者の市町村別割合 (%)

	平成6年	平成7年
名 寄 市	70.7	73.7
風 連 町	8.9	8.4
美 深 町	5.6	5.4
下 川 町	4.3	3.6
中 川 町	2.7	1.1
音威子府村	1.1	1.4
枝 幸 町	1.0	1.2
中 頓 別 町	1.0	0.6
歌 登 町	0.7	0.5
西 興 部 村	0.5	0.7
浜 頓 別 町	0.3	0.4
そ の 他	3.2	3.0

％、平成7年では外来で73.7%、入院で63.7%でした。市外患者では風連町、美深町、下川町の隣接した3町が多く、中川町、音威子府村、枝幸町、中頓別町、浜頓別町、歌登町、西興部村がそれに次ぎます。その他、数は多くはありませんが、幌延町、雄武町、興部町、幌加内町から通院されている患者さんもいます。

5) おわりに

平成8年4月からは、小児科医が1人増員になり4人体制になります。病棟、外来のスタッフと力を合わせ、この地域の小児の健康のために、より充実した医療サービスを提供していきたいと思っています。